

高向宮司退任

葦津権宮司が新宮司に昇任



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

御挨拶

盛夏の候、宗像大社御崇敬の皆様には益々御清祥の段、慶賀に存じ上げます。

さて私儀、平成二十一年七月以来、宗像大社宮司として勤めて参りましたが六月十三日をもちまして退任致しました。

昭和五十二年に奉職以来三十八年間に亘り大過なく神明奉仕出来ましたことは、宗像大神様の御加護はもとより職員をはじめ氏子崇敬者、関係各位の皆様方の公私にわたる格別の御支援と御芳情によるものと衷心より厚く御礼申し上げます。尚、後任には権宮司の葦津敬之が就任致しましたので、引き続きご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

高向 正秀

今般、高向宮司が御勇退され、不肖私儀その後任に推され六月十四日付で宮司に就任致しました。

素より浅学非才の身、職責の重大さを厳かにうけとめ、御神威を畏み、微力ながら誠心誠意、社務に精励する所存でございます。

今後とも御指導御鞭撻をいただきまして、前宮司同様の御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

宗像大社 宮司 葦津 敬之

余滴

中津宮境内には、「天の川」が流れ海に注ぐ。兩岸には「牽牛社」、「織女社」が祀られ小宇宙が構成されている▼平安時代、清少納言は、枕草子の中で「星はすばる。ひこぼし。ゆうづつ。・・・」と記している。当時は、環境的にも、「すばる」の六つ星も鮮やかに煌めき、宇宙は身近にあった▼同じ時代、皇室・国家に大事がある時、延喜式の制度により、名神祭に預かる社には勅使が差遣され臨時の大祭が斎行された。延喜二十年(920)六月には「三合の厄」により、当社でも臨時奉幣祭が行われた。「三合の厄」とは、陰陽道で、日・月・星の三光が合体する災厄の時で、自然災害の災いを鎮める祈願である。古代より、人々は神秘的な天体の動きを観測してきた▼八世紀に編纂された古事記では、混沌した宇宙を創造して始まる。そして二柱の大神の国産み、天の岩戸開き、天孫降臨と神話が展開してゆく。日本人の宇宙観がある▼人類は進化に伴い、ゴージャムの絵のように「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」という人間存在の根源的な問い掛けをはじめめる▼二十一世紀の宇宙論では、宇宙は「無」から「大爆発(ビッグバン)」により始まり137億年経過。尚も宇宙は膨張しているという。人類は宇宙の中、一瞬を生きている。(渡)

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

高向宮司の御足跡

去る六月十三日を以つて高向宮司が退任された。

三十八年間に亘り宗像大社に御奉仕され、質実剛健で時に厳しく時に優しく、後進の指導に務められ、神明奉仕に精励された。

高向宮司は地元宗像の出



皇太子殿下行啓 (神門前)

身、高向家は代々宗像大社の社僧を務めた家柄。県立宗

像高校を経て昭和四十八年皇學館大学文学部国史学科を卒業後、同年四月より伊勢の神宮、同五十二年四月に当大社に奉職された。その後昭和六十一年広報課長、

平成七年に賽務課長、平成十三年に祭儀部長を歴任



出光美術館行啓

し、同十四年禰宜に昇任、同十五年に権宮司となり宮司の支えとして職員の指揮をとり、平成二十一年神島宮司の後任として宮司に就任し、六年間社務運営に卓越した能力を発揮された。宮司在任中、平成二十三年に参道拡幅工事と新トイ

の修復工事を見事に成し遂げられた。皇太子殿下には平成二十五年七月の辺津宮、翌二十六年九月の東京・出光美術館「宗像大社国宝展」と二度の行啓を仰ぎ奉り、宮司は先導、案内の大役を見事に果たされた。地域への貢献として宗像青年会議所を経て、宗像ロタリークラブに入会され、地域の文化振興にも大きく寄与された。



遷座後、初めての祝詞奏上

夏越祭・大祓神事 ご案内

恒例の夏越祭が近づいて参りました。このお祭りは、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための神事でございます。

皆様お誘い合わせの上、御参列下さいますようお願い申し上げます。



◆七月三十一日(金)
午後五時
◆大祓神事引き続き 夏越祭

宗像大社が記念切手に 「ふるさと切手」福岡県発行

六月十六日、日本郵便(株)

よりふるさと切手「地方自治法施行六十周年記念シリーズ『福岡県』」(82円郵便切手5枚1シート、500万枚100万シート)が、全国の郵便局で一斉発売された。

この切手シリーズは、地方自治法施行六十周年を記念し順次発行される四十七都道府県ごとの図柄による記念貨幣と連携して発行されるもので、今年度は福岡県の他に山口県と徳島県が

発行される。

発行された五枚のうち最も大きな縦39ミ、横33ミサイズの図柄が「沖ノ島と宗像大社と金製指輪」で、残りの

縦33・5ミ、横28ミサイズには「小倉城」「朝倉の三連水車」「柳川の川下り」「英彦山神宮の銅鳥居」が描かれ、シート背景は「大濠公園」と福岡県を代表する風物や名所の図柄になっている。

宗像大社の切手は、造幣局が今後発行する千円記念

貨幣を元にデザインされたもので、

神社では昨年より福岡県を通じ造幣局へ図柄決定のため、写真や資料の提供を行うなど調整を進めてきた。

発行当日の宗像大社前郵便局では、宗像大社の「祈願殿と沖ノ島出土の国宝・龍頭」を組み合わせた図柄の風景スタンプを押してもらおうと、事前郵送を含め当日も多くの方が来局していた。

一方記念硬貨は千円銀貨と五百円硬貨で、「沖ノ島と宗像大社と金製指輪」はカ

ラー千円銀貨で十万枚、五百円硬貨は「九州国立博物館と太宰府天満宮太鼓橋と梅」で二六八万枚が発行される。

宗像大社の千円銀貨は六月下旬より造幣局で受付が開始され、抽選で購入でき一枚六、一七一円。五百円硬貨は全国の各金融機関で七月十五日より引換えられる。

また七月三十日(木)には、五百円記念貨幣入りのハードカバー切手帳も五六〇〇部限定で発売される予定。ご興味をお持ちの方は造幣局、または宗像郵便局へお問い合わせ下さい。



国務大臣 山谷えり子氏参拜

大島へも渡島、中津宮へも参拜

六月十三日、第三次安倍内閣で国務大臣(国家公安委員長、拉致問題担当大臣)を務める山谷えり子氏が、公務の合間をぬって「神宿る島」沖ノ島と関連遺産群」の視察の一環として参拝された。



中津宮

はじめとした宗像大社の由緒に熱心に聞き入っていた。続いて訪れた海の道「むなかた館」では、西谷館長の案内で館内を視察、沖ノ島の臨場感溢れる3D映像もご覧になった。

さらに大島へも渡島。沖西沖・中両宮奉賛会長の奉迎を受け、中津宮を正式参拝、大島最高峰の御嶽神社、沖津宮遙拝所も参拝された。また、安倍総理のご先祖である安倍宗任が眠る安昌院も参詣。感慨深げに手を合わせ



安昌院

大島最高峰の御嶽神社、沖津宮遙拝所も参拝された。また、安倍総理のご先祖である安倍宗任が眠る安昌院も参詣。感慨深げに手を合わせ



大島港

ておられた。視察の行程を全て終え、島を離岸する際は多くの島の民の見送りを受け、紙テープを握る大臣は涙ぐんで手を振るなど、視察とは思えないほど感動を受けた様子であった。

拉致問題など多くの難題を任される山谷えり子大臣ですが、誠実なお人柄を通じてこの国のため益々のご活躍されますことを心よりご祈念申し上げます。

六月十三日、宗像大社氏子青年会定例総会が嶺会長以下二十三名出席し清明殿にて開催され、来賓として参議院議員松山政司氏に御臨席を賜り御挨拶頂いた。

総会は、まず平成二十六年活動報告並決算報告並びに決算監査報告が行われた。次に規約変更の件が審議され、より一層の活動充実のために本年度より役員数を増やし、副会長の定数を二名から四名以内とする旨審議された。次に役員改選の件にて、次期会長に田村副会長が選定され、その他新役員の増任にて承認された。最後に全会員で聖寿の万歳を行い、総会は滞り無く終了した。



新役員

宗像大社氏子青年会定例総会



- 〔会長〕 田村政則
- 〔副会長〕 矢原吉房、郭 郁三、中野順
- 〔理事〕 安部芳英、古賀智己、井浦潤也、永島史章、神 一明、安井貴之、堀江裕明
- 〔新理事〕 徳永新一、新戸英文、花田哲司、吉村一彦、本川基毅
- 〔監事〕 権田健一
- 〔新監事〕 井上正文
- 〔相談役・副会長〕 嶺 俊光
- 〔相談役〕 小林栄二

沖津宮現地大祭 齋行

神職以外で沖ノ島への入島が年に一度許可される沖津宮現地大祭が五月二十七日に行われ、全国より二三百名の一般参列者と、大島の氏子で構成される沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、神職等総勢二五〇名が沖ノ島に渡り、敬虔な祈りが捧げられた。

この祭典は、日本海



沖津宮現地大祭



波止場の風景

海戦を勝利に導いた先人達を顕彰し、また国家の安泰を祈願するため毎年、五月二十七日に齋行されている。参列者は前日、大島へ参

集。中津宮で午後六時より渡島安全祈願祭に参列し翌日の無事の渡島を祈り、各自大島に齋泊した。

明朝午前七時、大島渡船「しおかぜ」をはじめ各々乗船し、出港。午前九時には全船沖ノ島に到着、直ちに海中で禊をし、沖津宮本殿へ参進した。

午前九時三十分、沖津宮本殿にて祭典齋行。高向宮司が祝詞を奏上し、各代表が順次玉串を奉り敬虔な祈りを捧げた。

その後、波止場では沖中両宮奉賛会、同翼賛会奉仕による直会が行われ、刺身、煮魚等に舌鼓を打ちながら、参列者は神の島でのひと時を過ごした。正午、一同は各船に乗り込み沖ノ島を離島、午後一時三十分には全船大島に到着し、各々帰路に着いた。

一方で、渡島できない女性らは大島にある「沖津宮遙拝所」での祭典に参列し、遙かに祈りを捧げた。

宗像漁協大島支所 沖ノ島に鳥居を奉納

五月十六日、宗像漁業協同組合大島支所代表理事事宮本昭則氏をはじめ組合員三十八名が沖ノ島に渡島、第二鳥居を奉納された。

当日、午前九時半四隻の船に分乗し来島。沖津宮に着くと鳥居奉納奉告祭を斉行し、鳥居の建替

福岡県氏子青年協議会定例総会

六月六日、当大社にて福岡県氏子青年協議会定例総会が集い、午後三時より御本殿にて正式参拝を行い神宝館の拝観後、海の道むなかた館にて総会を開催。総会は滞り無く終了し、懇親会では各会員との交流を深めた。

氏子青年協議会

えに取り掛かった。まず、傷みの見られた古い鳥居を解体し、新しい木材を組み上げ、約二時間の作業で新しい鳥居が建立された。作業を終え奉仕者達は清しい笑顔で沖ノ島を後にした新しい鳥居は聖域に踏み入れるに相応しい輝きを取り戻した。

第2回

「宗像国際環境一〇〇〇人会議」が開催

国内外の有識者等が宗像に集い、海の世界環境保全をテーマに討議



五月二十二日より五月二十四日の四日間にわたり、海の世界環境保全と次世代を担う人材の育成を目的とした「宗像国際環境一〇〇〇人会議」(共同議長IIラモス・ホルタ東ティモール民主共和国前大統領/ラジエンドラ・

パチャウリIPC議長が、海の世界「むなかた館」、宗像ユリックス、ぶどうの樹、グローバルアリーナ等の宗像市とその周辺施設を使って開催され、国内外の研究者や文化人、全国から選ばれた一〇〇〇名の大学生等三〇〇名が第二回目のテーマ

「海と生きる〜海と森の共生〜」について熱い議論を繰り広げた。

期間中には当大社葦津権宮司も理事として参加し、また合間をぬって会議に出席された多くの研究者や文化人が当大社に参拝され、古代から大陸に向けて開かれた宗像の歴史、風土に関心を寄せていた。

日本の国際交流に大きな役割を果たした宗像三女神を奉祀する宗像の地に於いて

て国際会議が開催され、今後継続する意義は誠に深い。本会議が、今後、神社神道が培ってきた自然に対する畏怖、畏敬の念、共存共栄など多様性尊重の精神を、より多くの方々に触れていただく機会となればと祈るばかりである。

本会議は宗像市を会場に毎年定期開催され環境保全の実践に務めて行く。



期間中に御参拝頂いた著名人(順不同、敬称略)



③大村秀章(愛知県知事)



②松田音壽(株御木本真珠島 代表取締役社長)



①プリンス・ルイ・アルペール・ド・プロイ(デロール オーナー)、デイビッド・アンデルマン(World Policy Journal 発行者)、エバレット・ブラウン(写真家、画家)



⑥八神純子(歌手)、奥田政行(シェフ)



⑤節子・クロソフスカ・ド・ローラ(バルテュス財団名誉会長)、ピーター・マクミラン(翻訳家、詩人)



④サンキュン・ビュン(ユネスコ政府間海洋学委員会議長)、ハヤット・シンディ(サウジアラビア国王アドバイザー)、黒田玲子(東京理科大学教授)、マーティン・パーマー(世界宗教者環境保全連盟(ARC)事務局長)、ハン・チュンリー(ユネスコ生態・地球科学部長)

株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 新入社員研修所感

株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 総務部

去る五月七日、九日の三日間、宗像大社様のご厚意により、新入社員教育の一環として宗像大社研修を実施させて頂きました。新入社員十六名(内女性四名)、引率者一名の計十八名が、日本の歴史を知り、郷土への愛着

心を育むと共に、社会人として身に付けるべき「奉仕の心」「礼儀作法」を学ぶ目的で企画させて頂きました。

研修開始に際し、御神様に恙無い研修を祈願し、研修開始奉告祭を本殿で執り行った後、高向宮司より「初めての経験の中で日本人の心を感じて欲しい。グローバルに仕事をしない、海外の方と対等に話しをする為に、もっと日本の国を知らなくてはならない

い。」との講話を頂き大変気持ち引き締まりました。その後、白衣・白袴を身につけると立ち振る舞いにも緊張を感じました。宗像大社の歴史のご説明の後、神宝館や境内を巡り、宗像大社の伝統を重んじておられる姿勢に触れることが出来ました。その他にも神職の方々のご指導の元、神社祭作法、鎮魂、朝拝、禊練成、奉仕活動をさせて頂きました。特に夜の高宮での鎮魂は、暗闇の中、心が落ち着き神秘的なものを感じました。

研修生からは「今後の生活の中で美しい所作を忘れずに尊敬と感謝の気持ちを表したい。」「日本人としてもっと日本の事を学びたい。」との感想が聞かれ、神道が多くの日本人の心の拠り所になっている事を改めて感じました。

また宗像大社の復興にご尽力された出光佐三様の業績を知り、その奉仕の心として大切な事を学びました。

未熟な新入社員に対して、懇切丁寧なご指導をいただいた宗像大社の皆様にご心より感謝申し上げます。最後に、宗像大社様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。研修の御礼とさせて頂きます。

二宮欣山氏 書「匪撃」を奉納

六月七日、昨年の本殿遷座を奉祝した書が二宮欣山氏により奉納され、本殿において奉納式が執り行われた。同氏は日本書芸院評議員等数多くの役職に着かれる中、昨年執り行われた当社の本殿遷座を祝して、縦約一九〇cm・横約八十五cmの和紙に「匪撃(ひじ)」と、私心が無いことと言意の言葉を謹書された。



当日、本殿にて奉納奉告祭を斉行、祭典後には高向宮司より感謝状と記念品が贈呈された。



神湊での禊練成



境内諸施設見学



研修終了奉告祭



神湊での禊練成



宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



福岡市 中央区 MINORU
五月雨の宗像大社訪いすれば雅楽の笛に花嫁映えて
雨で濡れた新緑の中の花嫁。景があざやかだ。三句以下(訪へば雅楽に合わせ花嫁あゆむ)に。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
花散りし寺に集いて七回忌兄偲びつつ唄う木曾節
兄との思い出の歌の木曾節か。(七回忌迎える兄を偲びつつ花散る寺に木曾節歌う)に。

宗像市 宮田 山本 静子
お三時の皿にちよこなんこちら向くやぶれまんじゅうパンダの目をす
やぶれ饅頭をパンダに見立て、可愛く詠まれている。三句は「お皿に乗りて」に。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
七十年軍人思給に支へらる夫の遺影に明日をたのみて
亡くなられたご主人への感謝の歌。結句は(明日をもたのむ)としては。

福津市 若木台 山崎 公俊
菊姫を祀る村社の大き樟樹三〇〇年とぞ椿寄り添ふ
三百年の間、菊姫を守ってきた楠。椿は菊姫の化身か。四句はやはり樹齢としたい。

宗像市 多禮 早川 祥三
玄海を汲みあく北斗七星が八絃一字に雫をこぼす
(北斗の水汲み)の景の大きさが良い。全世界というような意味で使われたのだろうか八絃一字には再考を。

宗像市 日の里 大和美由紀
雨ごとに緑増したる庭隅に真紅の薔薇が一輪咲きぬ
色彩感が魅力。初句(一雨ごと)四句以下(一輪咲きぬ紅ふかき薔薇)紅を強調したい。

宗像市 田久 巻 桔梗
あそぞらの裏で白墨ひくは誰、白線じよよにじよよに伸びゆく
メルヘンのような発想が楽しい。飛行機雲の線を白墨の線に見立てた作者に拍手。

宗像市 大島 杉田 禮子
とりどりの緑に映ゆる島山を朝の浜よりしばし見呆くる
微妙に異なる島山の緑に見とれる作者。二句(新緑に映ゆる)とすると季節も分かる。

宗像市 東郷 山口 節子
A級の戦犯ひそかに祀りしとふ靖國神社に今も涙す
作者が戦犯の合祀をどう感じているのかが読者に分かる。と涙の理由も分かるのだが。

北九州市 門司区 北野カズミ
日課としプールに行けばひとり居も笑顔と会話クリアしてをり
一人暮らしの人には笑顔と会話が課題、なのか。三句以下(ひとり居のわれも笑顔と会話クリアす)。

◆選者詠
あぢさゐの葉のでで虫に魅せられて昔少年の夫しやがみこむ
うつつより飛びたつ翼もたざれば頭おもたく厨に立てり

俳句作品集

第六二〇回
宗像市 武丸 白土 凌一
山合いの風も涼しき心持良さ
宗像市 多禮 早川 祥三
ことわりを識らぬ哀しき花腐し

お知らせ

宗像大社神宝館展示替え作業のため
休館させて頂きます。
7月27日午後、7月28・29日

7月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～ 総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 30日 第60回 中津宮七夕揮毫会
午前9時～ 於=大島・中津宮
- 31日 夏越の大祓神事
午後5時～ 大祓式 於=神門前
引き続き 夏越祭 於=本殿

編集後記

宗像国際環境100人会議、山谷えり子

大臣参拝、本誌では紙面の都合上掲載出来なかつたが、社叢学会の受け入れ、また、個人的に友人の披露宴に出席する等、いつに増して今号編集中には様々、多種多様な方々との出会いがあった▼宗像大社周辺では、金色に輝いていた麦が一斉に刈り取られ、水が張られ、畑が田んぼに変身、早苗が顔を覗かせている。五月から六月にかけてのこの地域の風物詩である▼この時期境内には虫が現れる。社叢学会の専門化に質問してみると虫は農業等に非常に弱い、虫が生きられる環境は素晴らしい……と教えて頂き、改めて、宗像大社、宗像地域の良さを実感しました▼人との出会いによつて新たな考え方や、新たな宗像の良さを実感することが出来た。六月下旬久々の沖ノ島勤務に行つてまいります。神明奉仕、人ではなく神様と向き合い、新たな何かを発見したいと思ひます。(鈴)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所 〒811-1350 五
福岡県宗像市田島三三三二
電話 (0940)621-3311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円